

1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年6月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2775003078
法人名	社会福祉法人 川福会
事業所名	グループホーム布市真寿庵
所在地	東大阪市布市町2-12-2 (電話) 072-983-2255
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 6月 9日

【情報提供票より】(平成 20年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤	6人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	2階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,500円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要 (平成 20年 5月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.5歳	最低	70歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	枚岡病院、後藤クリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人川福会の施設内に建てられたグループホームで、理事長が地域住民との話し合いで小規模なホームをとの要望から5年前に設立されました。東大阪としては初めてのグループホームで、静かな住宅地に立地し、生駒の山々が見渡せます。ホームの目標「いつもあふれる笑顔を」を職員間で考え、「心がこもった介護」を実践しています。地名をホーム名として名付け、ホームの共用部分を地域に解放し、自由に使用してもらうことで地域と馴染みの関係ができています。ボランティアの訪問や月に1回お寺さんの法話を聞かせてもらったり、歌声喫茶に参加の機会を設けています。毎日入浴はできるよう配慮し、清潔感とおしゃれを心がけるよう支援して、家族に喜ばれています。食事は3食共ホーム内で調理し、利用者も一緒に行い味付けや切り方、盛り付けに力を発揮しています。朝食とおやつは近くの商店街へ買い物に出かけて選ぶ機会を作っています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の評価で示された事項について、改善が進んでいます。食量については主食、副食のチェック表を作成しています。個人記録は1冊にまとめてわかりやすく整理しています。1階の鍵については会議を開き、家族と職員とで検討し、暗証番号を伝えることにしました。できることから職員と話し合い、改善に取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は評価の意義や目的を共有し、それらを活かす内容について取り組んでいます。職員全員で会議をして意見を出し合い、自己評価票を作成し、ケアを振り返り、服薬支援の充実や記録の書き方についての改善点についても検討しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議の規定を作成し、地域包括支援センター職員、自治会役員、利用者、家族代表の参加のもと運営推進会議を2ヶ月に1回(偶数月)開催しています。利用者の状態、サービス提供等の報告、活動の報告、地域で開かれる各種行事の予定、前回の外部評価で改善項目となった施錠や金銭出納帳についての等を検討しました。委員から歌声喫茶があることを教えてもらうこともあります。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月1回支払いのため家族に来訪してもらっており、その際には利用者の健康状態や服薬状況も報告しています。金銭管理については、立替え払い方式を採用しており、出納帳を確認し、サインももらっています。高額な物を買う時には電話で確認しています。また、毎月広報誌「布市倶楽部」を発行し、お誕生会の様子やお花見に行った様子などを載せています。玄関脇に意見箱を設けており、意見を表出できる雰囲気作りを心がけています。年に1回、法人内でのお祭りが開催され、家族の方を招待し、昼食を一緒に食べるなど交流を図っています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設は自治会に加入し、近隣住民との交流もあります。日頃から食材や日用品の買い物に商店街を利用しています。歌声喫茶や地元の夏祭りに参加し、秋祭りではだんじりがホーム内まで入って練り歩いてくれます。保育園児から工作のプレゼントやボランティアによる押し花、お誕生日にはケーキを届けもらうなど交流があります。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念を基盤として、グループホーム独自の「いつもあふれる笑顔」を目標に掲げ、住み慣れた地域でその人らしく穏やかな生活を提供していくことを目指しています。	○	今後は、理念の中に、地域密着型サービスとしてのホームの役割を明示することが求められます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が明文化され、ホーム玄関の日常的に目にする場所に掲示されています。職員には日々の業務の中で確認し、新任研修の時には説明、周知するよう伝えています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	施設は自治会に加入し、近隣とも交流があります。日頃から食材や日用品の買い物に商店街を利用しています。月1回歌声喫茶や地域の夏祭りに参加しています。秋にはだんじりがホームの敷地内まで入って練り歩いてくれます。保育園児から工作のプレゼントや、ボランティアには押し花やお誕生日ケーキを届けてもらい交流しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義や目的を共有し、それらを活かす内容について取り組んでいます。職員全員で会議をして意見を出し合い、自己評価票を作成し、ケアを振り返り、服薬支援の充実や記録の書き方について改善点を検討しています。外部評価結果は来訪者にも提示しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の規定を作成し、地域包括支援センター職員、自治会役員、利用者、家族代表の参加のもと運営推進会議を2ヶ月に1回(偶数月)開催しています。会議の中で歌声喫茶や地域の盆踊り、秋祭りである布団太鼓やだんじりの情報も教えてもらいます。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは相談のできる関係作りができています。同法人内の施設に地域包括支援センターを設置しており、いつでも情報交換しています。また、市の生活保護担当者が来訪する際には相談にのってもらったり、助言を受けたりしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は、頻繁に来訪される方や月1回の方とさまざま、週末に温泉旅行や食事に行かれる方もいます。ホームへ来訪してもらった際には健康状態や服薬状況も報告しています。金銭管理については、立替え払い方式を採用しており、出納帳を明示し、確認のサインもあります。高額な物を買う時には電話で確認しています。また、毎月広報誌「布市倶楽部」を発行し、お誕生会の様子やお花見に行った様子などを載せています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇に意見箱を設けています。また、意見を自由に言える雰囲気作りを心がけています。年に1回、法人内でのお祭りが開催され、家族の方を招待し、昼食を一緒に食べて交流を図っています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限抑えるように努めています。また、引継ぎについてはマニュアルを作成して活かしています。新人職員が入るときは、広報誌にて紹介しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、外部研修については年間2回、内部研修については同法人特養と合同で防火訓練や感染症等について行っています。外部研修に参加して得た内容については、資料は綴じ、研修報告書も作成し、職員に配布しています。また会議でも研修内容について伝達を行っています。今後はさらに会議の際などに伝達研修として行われることが期待されます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員が地域の同業者と交流する機会を持っています。グループホームの開設時から他ホームへの見学や情報交換等交流も行っています。また、地域ケア会議でも情報交換を行い、質の向上に取り組んでいます。しかし、同業者ネットワークには加入していない状況です。	○	今後は全国組織あるいは府や市内の同業者ネットワークに加入し、さらに同業者と交流する機会を作ることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームの見学に来てもらったり、また家庭や入院先、入所先へ職員が訪問し面接しています。体験入居もしてもらう等入居の決定は慎重に検討してもらうようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の状況に応じて、冬は編み物をしたり、布巾を縫ったり繕い物をしてもらっています。書道が好きな方は、食事のメニューを筆で書いてもらい実力を発揮しています。小唄や三味線を教えていた方からは、当時の様子をお聞きしています。花が好きな方は水やりをしてもらったり、栄養士だった方には料理の話や健康面についての話を教えてもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、状況把握に努めています。利用者の言葉や表情から思いを読み取ったり、確認したりしています。意思疎通の困難な方には、家族や周囲の関係者から情報を得て、入居に至るまでの状況を記述しています。個人別情報を作成して、昔話や好きなことなどを随時追加しています。また、職員全員で確認して把握しています。また、伝言帳を活用して、日々の細かな変化を記載し、情報を共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、担当者とケアマネジャー、職員が話し合い、それをもとに利用者や家族と共に介護計画を作成しています。また、アセスメントシートも作成し、利用者の生活歴、ライフスタイルについても記載されており、利用者が望まれる生活を取り入れています。作成した介護計画について、利用者や家族から同意のサインを得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については6ヶ月ごとに見直しを行っています。目標については、日々の記録や週ごとのミーティング、随時行われる会議での話し合い、利用者の状態変化や状況、家族や利用者の要望に応じて見直しています。アセスメント記録、カンファレンス記録、モニタリング記録や見直された介護計画書もあります。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスで毎月行われる法話会やクリスマス会、日曜日には映画会を催して楽しんでいます。かかりつけ医への受診については、家族と共に通院支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設施設内に診療所があり、内科は月2回、外科、精神科、歯科については必要時に受診しています。健康診断については年1回受けています。緊急時について協力病院とも連携が取れています。併設施設の看護師と連携し、日々相談などの支援は受けていますが、現在のところ医療連携体制は整っていない状況です。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では職員で幾度かに渡り、重度化を課題として話し合っているところです。家族の方とは入居の際、重度化や終末期の対応や方針について話し合いを行っています。	○	現在、終末期の医療等対応について検討中ですが、家族、医師、看護師、職員と連携しながら、取り組まれることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。利用者の誇りやプライバシーに注意を払っています。個人情報保護の取り扱いについては、事業所と職員間で取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課は決まっていますが、利用者一人ひとりのペースを大切に、できるだけ個別に配慮した支援を行っています。食事もゆっくり摂られる方に配慮し、時間をかけて食べられるように支援しています。利用者一人ひとりの生活リズムを大切に、急がずことなく穏やかに過ごせるよう配慮しています。希望によりコーヒーやお酒の好きな方にも対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食ともホームで調理し、できたての食事を提供しています。職員と一緒に和やかに食べています。利用者は皮をむいたり、豆のスジを取ったりするなど得意なことを手伝っています。また、配膳、下膳、食器洗いや後片付けも行っています。献立については併設施設の管理栄養士が作成しています。朝食とおやつについては自由に楽しんでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日曜日を除いて毎日実施しています。入浴の順番についても、記録をつけて利用者が平等に入浴できるように考慮しています。入浴を好まない方にも、菖蒲湯等で入浴を楽しんでもらうなど工夫しています。利用者も、ホームに入居後毎日の入浴と着替えで身綺麗になったと喜ばれていました。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、毎日の生活の中でそれぞれに役割を見つけ、話し合いながら張り合いのある生活を送っています。字を書くことの好きな方は毎日の献立をボードに書いています。そのほかに新聞読みや生け花、裁縫などできることをしています。また、リハビリとして毎日歌に合わせて体操したり、風船バレーをしたりして楽しく過ごしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日施設の周りを散歩しています。また食事会やドライブ、月1回の歌声喫茶や3日に1回の買物、美容院等さまざまな外出の支援をしています。その他初詣や温泉、お花見、併設の特別養護老人ホームへの行事参加も実施しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は2階にあり1階はガレージとなっているため人気が多く職員の目が届きにくい状況です。しかし1階玄関はオートロックで鍵をかけていますが、家族や利用者には暗証番号を伝え自由に行き来することができます。利用者が外出したいときは職員が同行しています。家族や運営推進会議でも話し合いの機会を持って検討しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力も得ながら、利用者も含めて定期的に避難訓練を実施しています。災害時の訓練についてはマニュアルを作成しており、併施設とも協力体制をとっています。運営推進会議や地域の自治会でも、地域住民に協力をお願いしています。非常用の食料や水については、まだ備蓄までには至っていない状況です。	○	地震などの非常災害時に備えて、非常用食料品や水、備品を備蓄することが求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの栄養摂取量や水分摂取量を把握しています。また栄養バランスについては併施設の管理栄養士によってカロリー計算されています。水分摂取についてはこまめに声かけを行ったり、いつでも飲茶できるようにセッティングしています。食事量はチェックをして利用者の体調の把握に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には保育園児からプレゼントの工作や元職員からの人形、ボランティア提供の季節の折り紙が飾られて華やかな雰囲気になっています。生活空間は風通しが良くゆったりとしており、採光も工夫しています。掛け軸や、花が生けられていて、家庭的な雰囲気になるように工夫しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室に洗面所とタンス、ベッドが用意され、清潔感があります。自宅から持ち込まれたタンスやテーブル、椅子やソファなど馴染みの家具があり、居心地良いう工夫しています。家族の写真を飾ったり、遺影に毎朝一番でお茶を供えてしたりしている利用者もいます。また季節の花や母の日にプレゼントされた品をきれいに飾っている利用者もいます。		